

震災を風化させないために
 平成23年度施設部会研修会開催

東日本大震災から九カ月が経ち、報道等で被災地の姿を映す機会も減ってきましたが、復興に向けた活動はこれからであり、県内福祉施設による支援活動が続いています。

こうした被災地の現状や支援活動を共有し、今できることを考える機会として、去る十一月十四日、施設部会研修会「施設における災害支援（東日本大震災への支援を通して）」を開催し、七十名を超える参加がありました。

研修会は山川保部会長（白十字会林間学校施設長）の挨拶と黙とうで始まり、森下浩明さん（障害者支援施設ゆう施設長）、岩壁信行さん（特別養護老人ホーム等々力副施設長）、江森幸久さん（更生施設民衆館施設長）の三名から、それぞれが行った支援内容の報告がありました。

森下さんは、初動期の四月、情報不足の中で行われた宮城県での活動状況を報告し、半年にわたる職員派遣の様子や、そのチームづくりの難しさについて語りました。

続いて岩壁さんからは、福島県か

らの被災者を自施設の入所および通所施設で受け入れた際の支援内容の報告がありました。

江森さんは、更生施設の特性に沿った相談支援を宮城県の災害支援ボランティアセンターにおいて発揮したことで、これからの支援を継続していくと方針を語りました。

その後の意見交換では、被災時における地域社会とのつながりの大切さ、広域での協力体制構築の重要性、今すべきことを示すことのできる人材や、コーディネイト機能を発揮できる人の配置の必要性について示唆され、これらを日ごろから培っていくことが被災時にも生かされるとの意見がありました。

また、「時間の経過とともに、震災を風化させてはいけない」「それぞれの支援を通じて得た縁を今後につなげ、つながる主体となっていくことが大切」であることを共有し、研修会を締めくくりました

本会としても、会員施設を中心とする皆さまとの協働のもと、今後さまざまな経験を踏まえた研修や支援を行ってまいります。

（社会福祉施設・団体担当）

福祉・介護の就職活動を支援します！
 かながわ福祉人材センターの取り組み

「福祉の仕事を探しているけれど、なぜか採用にならない」「なかなか適性のある応募者が集まらない」短期間で退職してしまう」。

福祉・介護の現場では、慢性的な人手不足が続いています。ハローワークを始め、就職支援に積極的に取り組んでいます。しかし、ミスマッチによりなかなか雇用に結び付かないといった状況が散見されます。

本会かながわ福祉人材センター（以下、「人材センター」）で毎年行う人材確保に関する需要調査における人材確保の設問では、「応募者が少ない」「仕事への理解が不足」「無資格でも就労意欲のある人への支援が必要」といった回答が近年目につきます。

人材センターでは、これらのミスマッチ解消のため無資格・未経験者や就職活動に不安のある方への支援として、施設職員の体験談を聞き自由な雰囲気の中で質問ができる「福祉の仕事を知る懇談会」や、施設で三日間の体験を行う「福祉・介護の職場体験」を実施しています。（今後の



懇談会では、施設職員と参加者の意見交換を行っています

実施予定は十一月参照）

求職者が、①体験談を聞く、②施設現場を知る、③求人施設に応募する、というステップを踏むことで、仕事への理解が深まり、就職活動が円滑になるだけでなく、早期離職の防止にもつながるものと考えます。また、求職者の不安や迷いを解消することを目的に、就職活動支援パンフレットの発行も予定しています。

福祉の仕事に関心をもった方々が現場の仕事を十分に理解し、また自信をもって就職活動に臨めるよう、人材センターは、今後も法人・施設と連携しながら、福祉・介護の人材確保に取り組んでいきます。

（かながわ福祉人材センター）

福祉就職活動支援パンフレット一覧
 （発行予定）

- 「今、福祉施設はこんな人材を求めている」
- 「履歴書は心の鑑（かがみ）！」
- 「面接はあなたの人柄をアピールする舞台（ステージ）」
- 「一年の流れを制する者は就活を制す！」
- 「世代別 就活大作戦！（若さに求められていることは何か？/これまでの人生経験はどのように役立つか）」
- 「福祉現場の実態を知ることこそが就活の第一歩」
- 「初めて福祉と出会うあなたへ」